

果 樹

1 無核栽培ブドウ

(1) 開花前後の管理

摘 心

- ・着粒安定・果粒肥大のため、開花3日前～満開期にかけて行います。
- ・ナガノパープルは、開花を確認した後に図2のように先端部分を軽くつまむ程度に摘心します。シャインマスカットは、房先7～8枚程度（基部葉から11～12葉）の所で摘心します。

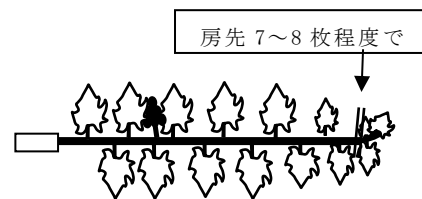


図1 摘心位置

房切り（花穂整形）

- ・花穂が伸びきり、房の上部が咲き始めた頃～満開期までに行います。
- ・花穂の先端を利用し、花穂長は開花始めの時点で下記を目安にしてください。

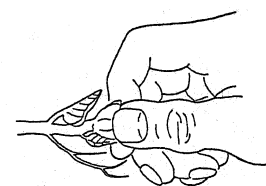


図2 摘心の方法：
未展葉部分を摘み取

	開花始め	満開時
無核巨峰、ナガノパープル	2.5cm	3 cm
シャインマスカット	3 cm	3.5cm
ピオーネ、クイーンニーナ	2.5cm	3 cm

いずれも
花穂先端は摘まない

(2) ジベレリン処理

- ① 1回目：満開時（房切り後の花穂の100%が咲いた時期）～満開3日後に花房浸漬処理します。

■ 処理濃度

品 種	処 理 濃 度
ピオーネ、無核巨峰	ジベレリン 12.5～25ppm＋フルメット液剤 5ppm
ナガノパープル、クイーンニーナ	ジベレリン 25ppm
シャインマスカット（特に若木の場合）	ジベレリン 25ppm＋フルメット液剤 2～5ppm

【注意点】

- ア 花冠があるとサビとなりやすいので、処理前に花冠を手などで落とす（特にナガノパープル）。
- イ 生育が揃わない場合は、2～3回に分けて処理する。
- ウ 処理後は、棚や主枝を揺すり余計な薬液を落とす。
- エ 処理の目印として、きゅうり等の接木用クリップを使うと便利。

② 2回目：満開 10～15 日後（小豆大：果粒横径 8～9 mm）に果房浸漬処理します。

■ 処理濃度

品 種	処理濃度
ピオーネ、無核巨峰	ジベレリン 25ppm
ナガノパープル クイーンニーナ	
シャインマスカット	

本資料は、令和 5 年 5 月 1 日現在の農業登録状況に基づき作成しました。農薬の使用に当っては、最新の登録状況を確認してください。

【注意点】

- ア 処理時期が早いと肥大が劣り、遅いとブルーム（果粉）が溶脱し、着色も遅れる。
- イ 処理後は房を揺すり、確実に水滴を落としてサビ防止！
- ウ 湿度が高く薬液が乾きにくい日や、午後になってからの処理は避ける。

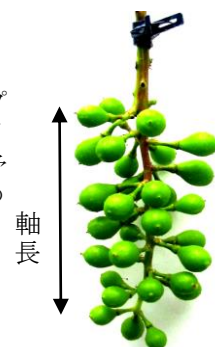
摘 粒

1 回目のジベレリン処理から 5～10 日程すると、果粒間の肥大差がはっきりするので、2 回目のジベレリン処理前に一通り摘粒を行います。この時期は指でも摘粒できるので効率的です。

■ 摘粒の目安

品 種	軸長	支柄段数	着粒数
無核巨峰	6.5cm	13～14 段前後	30 粒程度
ナガノパープル	7cm	13 段前後	30 粒程度
シャインマスカット	7～8cm	13～15 段前後	35 粒程度
ピオーネ、クイーンニーナ	6cm	10～12 段前後	30 粒程度

注：
写真は「ナガノパープル」で 1 回目ジベレリン処理 10 日後に、予備摘粒を実施したものの



2 凍霜害を受けたほ場の事後対策

(1) 全 般

- ア 園地ごとに被害発生状況をよく確認し対応しましょう。
- イ 県で作成した凍霜害対策動画「ずく出して凍霜害対策」や凍霜害対策パンフレットを活用し、事後対策を行いましょう。

(<https://www.youtube.com/playlist?list=PLbafRhw8yQcFZGUwdddCiuypilzSgoTp9>)



- ウ 着果量を調節し、その他の管理もしっかり行うよう努めましょう。
- エ 徒長枝切りや枝の誘引等により、花芽の充実を図りましょう。
- オ 窒素の追肥はしないでください。
- カ 防除は通常の体系により励行してください。

長野県農政部
youtube チャンネル

（２）りんご

- ア 果実の肥大状況やさびが明らかとなつてから、被害の小さい園地から摘果を始めてください。また被害程度に応じて摘果の強さを加減する。
- イ 中心果の被害がひどい場合は側果の健全果で代用し、肥大が良好で、形状が良く、さびが少ないものを残します。
- ウ 着果量を極端に少なくすると、樹勢が強くなり過ぎる恐れがあるので、結実不足となりそうな場合は被害果でも着果させ、バランスを保ち、新梢の充実を図ってください。

（３）なし

- ア 摘果作業は被害が軽度のものから始め、肥大が良好で、形状のよいもの（果形が長めの果実）、さびの少ないものを残します。樹種別には、二十世紀は落花後 20 日頃、赤なしは 20～30 日、西洋なしは 40 日頃までに終了してください。
- イ 着果量を極端に少なくすると、樹勢が強くなり過ぎる恐れがあるので、結実不足となりそうな場合は不良果でも着果させ、バランスを保ち、樹体の充実を図ります。
- オ 着果量が不足する場合は、新梢の発生が多くなり園内が暗くなるので、適切な新梢管理を実施してください。極端に着果がない場合は、誘引紐を切って側枝先端を立たせ徒長枝の発生を抑制してください。

（４）もも・核果類

- ア 種子（胚珠）が枯死しているものも多いので、果実の肥大状況等の様子をよく観察してから摘果を始めます。果実を切断して胚や核の生育を確認して被害程度を判断します。
- イ 摘果作業は被害が軽度の園地または品種から始め、生理落果する場合もあるので、多めの着果とし、その後、見直しを行います。
- ウ 着果量を極端に少なくすると、樹勢が強くなり過ぎる恐れがあるので、結実不足となりそうな場合は不良果でも着果させ、バランスを保ち、樹体の充実を図る。
- エ 摘果作業は落花後 40 日から 50 日頃までに終わらせます。
- オ 着果量の少ないものは、芽かきと摘心を適期に行ってください。